能阿弥

傳書 **本邦鍛刀銘盡** 明治年間筆写

備後国 一乘（法花トも／いう） 法花一乘トめいおするも有

助国（東条とん作／一文字ニ似たり） 正家 尾乃 正廣 尾乃 貞廣

尾道 此両三人なり 三原のさく者ありす

一三原ハ太刀のくる無銘なり子細在古三原又ハ子ゝ

孫三郎 又同国ニきたりし三原ト云 又同国ニも有之

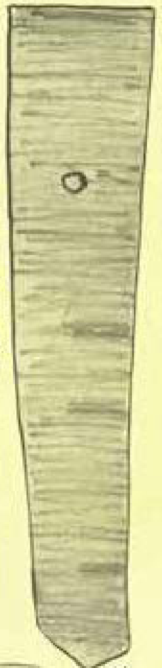
云へり 三原ハ云へり 以上四人あり 以後も銘之有

事なし 以前ハ不銘まて 代々なし 近年天下

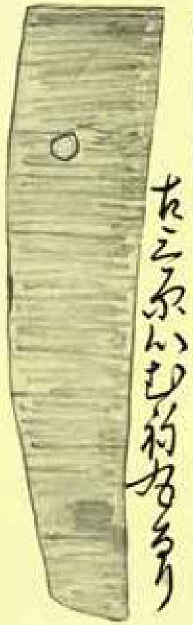
乱一乱 其所ハ地切ることより 應仁文明比至ゝ

用ゆるなり

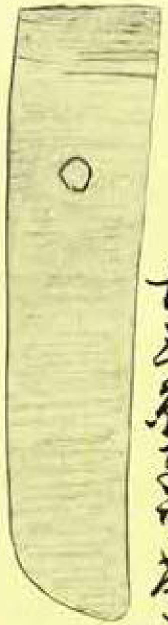
一無銘なる刃なるしを備前ニ移し 無なり



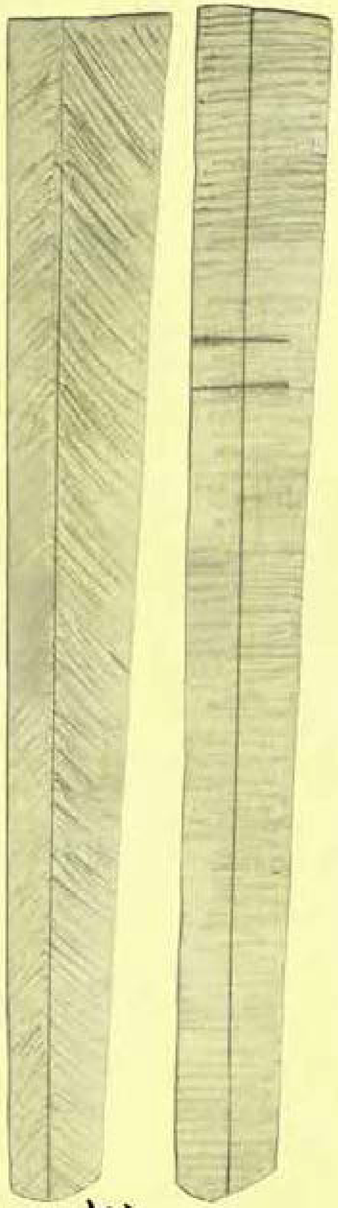
無銘 三原



古三原ハむ銘物なり



古三原子孫孫三郎や



此ハ三原也

[illegible]

原本は島根県安来市和鋼博物館蔵

令和七年（二〇二五年）一月一日

其阿彌秀文編集